

第6回観光まちづくりワーキング会議

■日 時：11/2（水）9：30～12：00

■場 所：本庁舎3階会議室

■出席者：阿部（部長）、杉村、水谷、三浦、BG田村、山里ネット田村、多田、富川、樋口
事務局_宮田、立花、阿部

1 GSTCトレーニング報告

多田：先日のGSTC研修の報告_10/11～GSTC3日間の研修について（別紙GSTCトレーニング報告書を参照）

- ・ 様々な業種の参加者があり、横のつながりや意見をきけたのがよかった。
- ・ 遠野の理想のサステナビリティについて語れる機会となった。

日本版持続可能な観光ガイドラインセルフチェック結果（別紙参照）

市民が観光に取り組む意義について（P2）

- ・ 「市民が観光に取り組む意義」たたき台について説明
→「市民が地域の価値を再認識し、地域文化を継承する誇りを醸成する」

◎ 自然の恵みを享受し、自然と共生暮らし

◎ 脈々と継承されてきた民俗文化

◎ 新旧融合による文化創造の余白

以下、参照項目

P3：持続可能なマネジメントは資料の

P4：社会経済のサステナビリティ基本方針

P5：文化的サステナビリティ基本方針

P6：環境のサステナビリティ基本方針

< 意見交換・質疑 >

三浦：SL銀河のお出迎えに市民の手助けがありがたい。非常にお客様に喜ばれる。SL銀河は来年の春で終了する。市民が「ここは観光地だよ」という認識が足りない。少しずつやっていると。学校を卒業して子供たちがまた戻ってくる、または「私の生まれた町はこんな良い場所だよ！」といえるような観光教育が必要ではないか。市民が楽しみながら参加するのがよいのでは、ぜひSL銀河のお見送りを見に来てください。

田村（山里）：新旧融合の表現に、地元の人々の当事者意識が気になる。地元の事業者が新しい基盤をつくるのか、新規事業者が新しい基盤をつくるのが非常に難しい。

富川：外から来た人の新しい目線。光を観る。地元こそ、光っていることに気が付けない。他の地域と比較すると、この会議に参加している人だけが観光を動かしていると思われないように。観光事業者のみでなく、一般市民にもお金が波及する、そのことが可視化できるとよいのではないか。

多田：自分がやったらどんないいことがあるのかなということがわかるように、ですね。

樋口：直接観光とは関係ない人たちがどう関わっていくのか、市民が観光のことを知らない。ボランティアも大切だけど、何か恩恵があってこそ続けられるものではないか。

多田：市民に対する情報開示が必要ではないか。

田村（山里）：ボランティアで地域の良さに気づくのも必要であると思う。文章として、市民がぼやけすぎている。例えば、遠野遺産で地域の神社などを活用したいと思っている人たちもいる。観光業だと思っていな

い人も、実は観光に関わっていると知る機会が必要。交流する機会を増やすことが重要ではないか。

多田：広く皆さんから意見を聞いてみることの大切さがある。

阿部：ビジョンの設定は別のメイン資料のP8.9が総論としてはうまくいくのではないか。

田村 (BG)：遠野市のサステナブルの外部評価なり認証を受ける形になるのか？外部からの認証を受けるためのステップがあるのか？

多田：今年の研修は単年度のもの。みなさんと相談しながらであるが、今後も外部評価を受けるためにアセスメント評価などもやっていく必要はあるかと。DMOなどがあるのが前提となる。これからの話し合いを経て決めていく。研修の報告については以上。

2 現地視察報告

杉村：プライベートで新潟・魚沼の雲海を共有

11月中旬のまで「大地の芸術祭」そのついでに雲海も見学・雲海スポットはたくさんある。

【枝折峠】朝6時ころ 100名くらい・P20～30台 観光協会がシャトルバス運行させている。20名乗りのバス3台程を運行。35分くらいの乗車・滝雲が見られる。ツアーにもなっている。往復で1,000円くらいのバス代。

【福崎町】妖怪を活用した観光資源 妖怪ベンチ 18個 フォトコンも実施されている。民間から寄付をいただき、作成しているものもある。カッパのカジロウは、町職員がデザインして作成した経緯あり。ベンチが模型となって展示もある。ガジロウのプラモデルもある。

3 遠野市観光基本計画検討プロジェクトについて

【観光地として目指す姿 取り組みの方向性】

水谷：P7観光地として目指す姿、取り組みの方向性、P8観光ビジョンの設定（目標像）を決めていきたい。P10個人の余暇の時間を奪っているのはスマホ・ゲーム・音楽である部分もある、観光はそれと競争していくことになる。旅行の目的も多様化している。日本人の国内旅行は横ばい・または減少。インバウンドが増。

P14：観光に関するトレンド サステナビリティの傾向について。

P15～：遠野市の観光の課題をもう一度。観光による経済効果が十分発揮できておらず、さらに縮小傾向にある。

「エントリーテーマ」の設定をどうするか。

P25：施策の方向性は7本の柱。(柱①～⑦の詳細はP28～35)

杉村：前回までの協議をまとめてブラッシュアップした資料となる。ビジョンの話は最後にしたい。

阿部：雲海は含まれているか？

杉村：雲海は中長期的にしていく。短期的には整備などもこれからになるかと。

水谷：P27：施策の立案にあたってのフロー 今日会議の後でもご意見を頂きたい。

P28：施策の一覧

①ターゲットに届く、的確なプロモーションについて

P29：②滞在時間を延ばすための周遊性の向上

P30：③より上質な観光体験を提供できる観光施設のバリューアップ

P31～32：④遠野の魅力を活かした観光サービスの提供 ここが一番弱いところ。

P33 : ⑤地域の資源を活かした特徴のある宿泊滞在環境

P34 : ⑥観光を通じた住んで誇れるまちづくり

P35 : ⑦官民連携による観光地マネジメントの推進

三浦 : P30 とおの物語の館の運営は、民でなく官で運営すべきではないか。

今後協議が必要かと思う。

田村 (山里) : 情報発信の意味とは？外向けの教育旅行や旅行会社への営業は情報発信に含むのか？

杉村 : そのあたりを定義していかななくてはいけない、

三浦 : P30 について高清水の雲海でお金をとるのか？

杉村 : 駐車場代を頂くなどの案をこれから。整備とも関わる。

田村 (BG) : P30 について、入口はビールでも「どぶろくやワインなど地域のお酒」に波及していくようにしてはどうか。伝統食も必要。

阿部 : 固有名詞で「どぶろく、ワイン」は必要ではないか。

杉村 : 表現・書き方を考えたい。

阿部 : 台湾へのインターンも再開する。高校生が裕毛屋 (ユウモウヤ) へ1か月インターンシップする。

観光、物産、インバウンドも可能であると考え。山地酪農をやりたい人も一人いる。観光資源にもなる。

田村 (BG) : それ (山地酪農) は食の話にもつながる。

阿部 : 山地酪農は来年4月からスタートする予定ではある。ヤマメも伝統食にふくめてはどうか。ヤマメが売れないで困っている。

三浦 : ヤマメ一夜干しは価格が高く出せない。半身でなんとかじゃないか。

多田 : P29 の②滞在時間を延ばす部分。わかりやすい看板製作、周遊ルートをパンフレットにするなど。

田村 (BG) : バスとか、レンタカーが必要になってくるがどうか。

水谷 : レンタサイクルがよい。

三浦 : 千葉家はどうなってくる？

杉村 : 千葉家のリニューアルオープンまでは、まだ時間がかかるのではないが。

田村 : 千葉家のことを考える際に、観光戦略の寿命はどのくらいか？

杉村 : 5年くらいがよいのではないか。10年では長すぎる。

宮田 : 千葉家はR10年オープン予定

杉村 : 千葉家の利活用を考える必要はある。

富川 : アーティストやクリエイター向けのガイド体制ができればよいなど。

阿部 : 中野ブロードウェイの若手クリエイターとかに来てもらって、遠野でイベントも良い。

富川 : 若手というより大物と呼べそうな感じがある。コムアイさんなど影響力のある人。クリエイターが遠野に来て滞在できるスペースも作りたいと考えている。

杉村 : そのあたりはプロモに含めていくことになるかと思う。

田村 (山里) : 含みを持たせる話になるが、住民のボトムアップ。地域の人々のイベント実施を支援するとか文言が入ってもよいのではないか。

樋口 : P34 の⑥-6、ここが私たちの関わりなのか、と想定されるとわかりやすくなる。

田村 (BG) : まちなかで飲食店をやる人を支援する。醸造所は含まれているが、いろいろな小さいビジネスを始めるひとを応援するというのが文言で含まれてもよいのではないか。

多田 : 文化課と観光交流課で、郷土芸能の保存と活用について会議が開かれる。

杉村 : 郷土芸能は1本立てしたほうがよいと思う。

阿部 : 芸能団体は外部の力を入れないと自立していけないようになっている。観光客が練習に参加するなどもある。

ってよいのでは。

阿部：修学旅行の営業は養成しないといけない。修学旅行は今後強化したい。

水谷：P38.39は他の市の例をみて抜けているものがないか。

三浦：2次交通が弱い。SLが到着したときのタクシーもない。バスもない。

田村 (BG)：観光をきっかけとした移住。

田村 (山里)：サイクリングで点在している観光^地を周遊させるのも解決策になり得る。

阿部：まちなかの空間演出。妖怪をとりあげたい。

樋口：カップやザシキワラシで、其々にいろんなキャラクターデザインがあって混乱する。

水谷：カップで行くか？妖怪で行くか？

田村 (BG) 人材の育成は優先度が高い。

杉村：新しい組織の人材？各施設の人材？

田村 (BG) 両方が必要。

水谷：次回の会議の前までに、みなさまからご意見いただきたい。

【取組みの推進体制について】

杉村：官民連携の組織についての素案について

P41～(仮)遠野DMO協議会 有する機能＝遠野市観光の戦略立案とマーケティング
についてご意見を。

田村 (BG)：麒麟は入りません。

杉村：市内の事業者の代表が商工会のイメージ。事務局が具体的にしないと人員の負担などもまだ見えない。
最後にP8に戻り目標像になるキーワードを。

三浦：「神々」のキーワードを含めたい。

神社を守るひとも多い。基本は神々。

阿部：「誇り、プライド」がよく使われるワード。

田村 (BG)：抽象的な言葉になると思うが、今まで話したことを入れるのって難しい。

田村 (山里)：P9の遠野の前計画が、まあまあ良い。どこで使うかによってだいぶ変わる気もする。

穹川：物語や文化 文化って過去のものと思われがちだが、ビールもホップも新しい文化を今作っている。新しいものも生み出されているという言葉が良いのでは。遠野で得たもの感じたものを文化にしていく。

田村 (BG)：外向きにして欲しい。このキーワードで作っていくというものになってほしい。

多田：これまでの観光を振り返った時に、「永遠の日本のふるさと」を使用してきた。

田村 (BG)：新しいことを生み出したい場所、背中をおされる場所が遠野だよ、みたいな言葉がよいのかなと。

杉村：ここからがプロモーションのスタート。

宮田：次回の会議は、12月議会の前がよい。

また連絡します。

立花：今日の会議の様子は遠野テレビに放映されます。

これまでの会議記録と資料は観光協会のページにてアップしていただく予定。